

110 明治時代 農村農民問題と労働運動

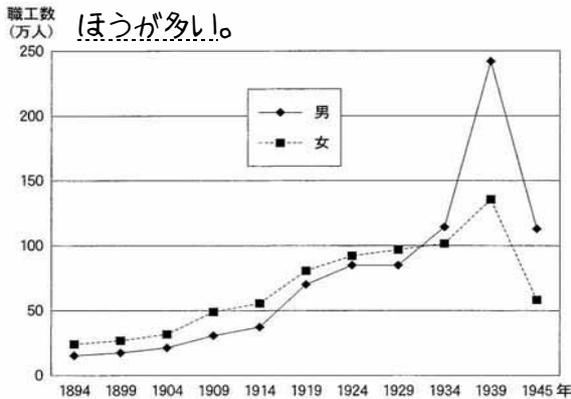
松方財政で日本農村に成立したのが

寄生地主制

小作農は作物の多くを現物の小作料として寄生地主に収奪されてしまったため生産意欲がわきません。戦前は、工業の発展と対照的に、寄生地主制度のせいで農業の発展が著しく停滞した時代でした。増え続ける都市工業人口の食べる米は、朝鮮人や台湾人の犠牲の上に確保されました。

明治時代の工業の特色

あ 明治時代は紡績業や製糸業などの繊維工業が中心だったため、女性労働者のほうが多い!



い 労働法が未整備のため、1日18時間労働とか過酷な工場労働環境だった。

う 田畑が少ない山間部の長野県などは多くの女工を送り出して悲劇を生んだ。
(代表例として ああ野麦峠)

1886年 最初の ストライキ
雨宮紡績スト(女工のスト)

1896年 原料綿花の輸入税が廃止※されて綿糸の輸出競争力が伸びた。
※国内綿花栽培がなくなり、保護しても意味ないので廃止です

1897年 労働組合期成会

アメリカ帰りの 高野房太郎
社会主義者の 片山潜らが結成。

- 日本鉄道矯正会
- 鉄工組合

これが最初の労働組合、高野が作った。

1891年 足尾鉍毒事件
松方内閣、第二議会(選挙干渉)

1900 治安警察法

労働三権を制限して労働運動を取り締まりました。第二次山県内閣です。治安維持法と並ぶ二大悪法です。

1911 工場法

日本で最初の労働者を保護する法律です。

- 少年 • 女性 の労働時間を12時間
 - 少年 • 女性 の 深夜業 を違法化
 - ※製糸業では労働時間の14時間
 - ※紡績業では深夜業が認められた。
- 法の制定は明治時代だが法の施行は大正時代に入ってからと遅れた。

明治末の日本経済

1909年 生糸輸出 が清国を抜いて世界一
1911年 関税自主権 回復

でもそれ以上に

- 原料綿花の輸入増
- 重工業資材の輸入増
- 機械の輸入増
- 日露戦争の 外債7億円 の巨額の利払い
(参考)1904年の歳入3億円

明治末の日本の貿易収支は危機的状態に。
解決策も見えない重苦しい状態。

110 明治時代 農村農民問題と労働運動